【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成17年8月11日(2005.8.11)

【公開番号】特開2000-79633(P2000-79633A)
【公開日】平成12年3月21日(2000.3.21)
【出願番号】特願平10-268229
【国際特許分類第７版】
　Ｂ２９Ｃ　49/02
　Ｂ２９Ｂ　11/06
　Ｂ６５Ｄ　 1/09
　Ｃ０８Ｌ　67/02
// Ｂ２９Ｋ　67:00
　Ｂ２９Ｌ　22:00
【ＦＩ】
　Ｂ２９Ｃ　49/02
　Ｂ２９Ｂ　11/06
　Ｃ０８Ｌ　67/02
　Ｂ６５Ｄ　 1/00　　Ｃ
　Ｂ２９Ｋ　67:00
　Ｂ２９Ｌ　22:00

【手続補正書】
【提出日】平成17年1月20日(2005.1.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
　共重合できるジカルボン酸成分として例えば、２,７－、１,５－、１,７－その他のナフタレンジカルボン酸の異性体；イソフタル酸、ジフェニルジカルボン酸、ジフェノキシエタンジカルボン酸、ジフェニルエーテルジカルボン酸、ジフェニルスルホンジカルボン酸等の如き芳香族ジカルボン酸；ヘキサヒドロテレフタル酸、ヘキサヒドロイソフタル酸等の如き脂環族ジカルボン酸；アジピン酸、セバチン酸、アゼライン酸等の如き脂肪族ジカルボン酸を例示することができる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２８】
　共重合できるジカルボン酸成分として例えば、２,６－ナフタレンジカルボン酸、２,７－、１,５－、１,７－その他のナフタレンジカルボン酸の異性体；フタル酸、イソフタル酸、ジフェニルジカルボン酸、ジフェノキシエタンジカルボン酸、ジフェニルエーテルジカルボン酸、ジフェニルスルホンジカルボン酸等の如き芳香族ジカルボン酸；ヘキサヒドロテレフタル酸、ヘキサヒドロイソフタル酸等の如き脂環族ジカルボン酸；アジピン酸、セバチン酸、アゼライン酸等の如き脂肪族ジカルボン酸を例示することができる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３０】
共重合できる多官能化合物成分として例えば、ｐ－β－ヒドロキシエトキシ安息香酸、ε－オキシカプロン酸等の如きオキシ酸を例示することができる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３８】
[中空容器の相溶化度]
本発明の製造方法により製造されるポリエステル中空容器は、該容器を構成するポリエステルの相溶化度が０．１５～０．５０である。相溶化度（相溶化度＝相溶化度＝P_{NT}＋P_{TN}）は次式で定義される。
相溶化度＝P_{NT}＋P_{TN}
P_{NT}；ＱＡ単位に隣接するＴＡ単位の存在確率
$P_{NT}=(I_{TEN}/2)/(I_{NEN}+(I_{TEN}/2))$
P_{TN}；ＴＡ単位に隣接するＱＡ単位の存在確率
$P_{TN}=(I_{TEN}/2)/(I_{TET}+(I_{TEN}/2))$
I_{TET}；ＴＡ－ＥＧ－ＴＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
I_{NEN}；ＱＡ－ＥＧ－ＱＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
I_{TEN}；ＱＡ－ＥＧ－ＴＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
ここで、ＱＡはナフタレンジカルボン酸単位、ＴＡはテレフタル酸単位、ＥＧはエチレングリコール単位である。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５８】
（７）相溶化度：
６００ＭＨｚのＮＭＲにて、エチレングリコールを構成する各水素の積分強度を測定し、次式にて計算した。
相溶化度＝P_{NT}＋P_{TN}
P_{NT}；ＱＡ単位に隣接するＴＡ単位の存在確率
$P_{NT}=(I_{TEN}/2)/(I_{NEN}+(I_{TEN}/2))$
P_{TN}；ＴＡ単位に隣接するＱＡ単位の存在確率
$P_{TN}=(I_{TEN}/2)/(I_{TET}+(I_{TEN}/2))$
I_{TET}；ＴＡ－ＥＧ－ＴＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
I_{NEN}；ＱＡ－ＥＧ－ＱＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
I_{TEN}；ＱＡ－ＥＧ－ＴＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
ここで、ＱＡはナフタレンジカルボン酸単位、ＴＡはテレフタル酸単位、ＥＧはエチレングリコール単位である。